

教師ノート

週課	第二年 第六課 第三週
単元	モーセ・1
テーマ	神は救いの道を備えてくださる
タイトル	過越しの小羊
テキスト	出エジプト11:1-13:16
参照箇所	出エジプト5:1-10:29、Iコリント5:7、エペソ1:7、ヨハネ1:29
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ヨハネ1:29
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 題 3 課 11、小下 2 題 3 課 12、小上 1 題 1 課 11、幼 2 題 1 課 3
□導入	いよいよ、モーセはパロのところに行きます。パロはすんなりイスラエルの民を、エジプトから出してくれるでしょうか？パロの心を変えるために、神さまが使った方法とは？
□ポイント1 神さまはエジプトに災いを下されました(11章)	(5-6章) モーセ(80歳)は、イスラエルの民をエジプトから救い出すために、パロの所へ行きました。しかしモーセとアロンがいくら頼んでも、パロの心はとてつもなく頑固で、イスラエル人を解放してくれません。それどころか、イスラエル人をもっと苦しめました。 (7-10章) 神は、強情なパロを罰し、心を変えるために、災いを下されました。9の災い=1. ナイル川の水を血に変える(7:17-25)、2. カエルが全土をおおう(8:1-15)、3. ぶよの大群が人や獣を襲う(~19)、4. あぶの群れが家の中にも外にも満ちる(~32)、5. 疫病で家畜が死ぬ(9:1-7)、6. すべての人にうみのでる腫物ができる(~17)、7. 雹と雷が人や獣や草木を撃つ(~35)、8. 空が暗くなるほどのいなごの大群が緑を食い尽くす(10:1-20)、9. 3日間まっくら闇になる(~29)。それでもパロは、イスラエルの民を行かせようとはしませんでした。 そこで、神はモーセに「私はもうひとつ災いを与える。その後パロは、イスラエルの民をひとり残らず解放するはずです」と言われました。その最後の災いとは、エジプトの全ての初子が死ぬというものでした。真夜中に、王の家でも、家畜の子どもさえも、初めに生まれた子どもがみんな死ぬというのです。
□ポイント2 神さまは、小羊の犠牲によって災いを過ぎ越すといわれました(12:1-28)	モーセは、最後の災いのことを、パロに伝えました。そして、イスラエルの民に告げました「今夜、エジプトの全ての初子が死にます。ただし、イスラエルの民は、次のことを行えば、その災いを受けません。すなわち、1家族ごとに、傷のない1歳のオスの羊を選んで殺しなさい。その血を家の2本の門柱とかもいにぬりなさい。またその肉を火で焼き、夜に種を入れないパンと苦菜と一緒に食べなさい。食べ残した肉や骨は全部燃やしてしまいなさい。あなたがたがこの通りに行なうなら、神があなたの家から災いを過ぎ越してくださいます。」イスラエルの民は、みな命じられたとおりにしました。真夜中になると、神はエジプト中の初子を打たれました。エジプト中で、初子を失った家族が、激しく泣き叫びました。しかし神の言うとおりにしたイスラエルの民の家の初子は生きていました。彼らは、災いを過ぎ越して下さったことを心から感謝し、神をほめたたえました。
□ポイント3 神さまはイスラエル人をエジプトから出られるようにしてくださいました(12:29-42)	その夜、パロはモーセとアロンを呼び寄せて「お前たち2人も、イスラエル人もみんなエジプトから出て行け！家畜までもみんな連れて行って、お前たちの神を礼拝しろ」と言いました。エジプト人は、このままでは自分たちも死んでしまうと思い、あわてて彼らを追い出しました。イスラエルの民に、とうとう出国の許可が出たのです。彼らは急いで支度をしました。しかし、急いでいたので、長旅の食糧としてパンを焼

くことさえできませんでした。こうして、男の人だけでおよそ60万人(女性と子どもを除く)のイスラエルの民がエジプトから出て行くことになりました。神はそれをずっと見守ってくださいました。これは、ヤコブの家族がエジプトに来てから、430年後のことでした。

「過越し」は、単なる昔のできごとではありません。これには深い意味があり、現在の私たちにも関係があるのです。傷のない羊の命を犠牲にすることによって、イスラエルの民の命は救われました。同じように、私たちが罪から救われるためには、キリスト・イエスの命の犠牲が必要だったのです。神は、羊の血によって、イスラエルの民が、災いを受けなくてすむようにしてくださいました。同じように、私たちが永遠の死を受けなくてすむように、イエスさまが十字架で血を流してくださったのです。

🍞 パン種＝当時は、パンをふくらませるために、イースト菌ではなく、発酵させておいた生地を混ぜて練る方法でした。そのため、生地をねかせておくのに非常に時間がかかりました。

□結論 救われるには犠牲の血が必要でした 暗唱聖句を読み上げます

イエスさまは、私たちの罪の身代わりとなって、十字架にかかって死んでくださいました。私たちは、みんな罪人ですが、イエスさまを信じて悔い改めるなら、誰でも罪から救われ、永遠の命を持つことができます。では、「どうして人類の救いに、キリストの命の犠牲が必要だったのでしょうか？ どうしてイエスさまが血を流されたことで、私たちが救われるのでしょうか？ それは、今日の「過越し」のお話をきいてわかりましたね。出エジプトの時、イスラエルの民の命が救われるために、傷のない羊の命の犠牲とその血が必要だったように、全人類のすべての罪が完全に赦されるためには、イエスさまの命の犠牲とその血潮が必要でした。イエスさまは、「世の罪を取り除く、神の小羊」です。神の小羊の命の犠牲によって、全ての罪人が救われたのです。約2000年前、イエスさまが十字架にかかってくださったとき、イスラエルの民は「これは過ぎ越しと同じだ。神の小羊の犠牲の血によって、私たちは救われるんだ。」と気がついたはずです。ずっと昔から、イスラエルの人はみんな過ぎ越しのことを知っていたからです。神さま、ずっと昔から、イエスさまの十字架によって、全人類を救う計画を備えてくださっていたということです。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例:みなさんも、もう一度、イエスさまの十字架の意味を深く知りましょう。今までは「どうして私の罪のためにイエスさまが十字架で死ななければならなかったのだろう？」と分からなかった人もいるかもしれませんが。私たちは、罪の結果として永遠に死ななければならぬ者でした。しかし、イエスさまが十字架で身代わりの犠牲となってくださったので、その血によって、罪が赦され、死から救われたのです。もし、今、心に罪があるならば、悔い改めのお祈りをして、あなたも救われましょう！！神の小羊の血は、イスラエルの民だけのものではありません。イエスさまの命の犠牲によって、全ての人の、全ての罪は、完全に赦されたのです。イエスさまの血は、どんな大きな罪も、どんなに多くの罪人も救うのに十分な、完全ないけにえです。この方法しか、私たちが救われて、天国に行くことはできません。イエスさまの十字架こそが、私たちのために、神さまが何千年も前から用意してくださっていた救いの方法なのです。既にイエスさまを信じて救われているお友だちも、「過越し」について理解することで、さらに深く救いを感謝できるようになりましょう。旧・新約聖書を買って、神さまは、私たちが救う計画を進めてくださっていたのです。